

# 関川村農業再生協議会水田フル活用ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約 70%で、主食用米以外の作物では、そば、大豆、米粉用米の作付面積が多く、土地利用型作物の作付面積は主食用米以外の作物の約 80%を占めている。

今後も主食用米の需要が減少する中で、他の作物への作付けの転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

しかしながら、山間部で農家の高齢化が進んだ地域では、耕作放棄に近い状態のほ場も目立つようになってきているのに加え、大豆や園芸作物については、一部地域を除いて猿害により栽培面積は減少傾向にある。

そのため、担い手へのほ場の利用集積や猿害対策を進めつつ、土壌条件や農業形態に見合う作物の推進が必要となっている。

## 2 作物ごとの取組方針

村内の 1,260ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

### (1) 主食用米

消費者に支持される高品質で安全・安心な米づくりを推進する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、主食用米の生産を行う。多様な需要に対応できる米作りを目指しコシヒカリ以外の品種の作付け推進を図る。

### (2) 非主食用米

#### ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を主食用米以外の中心作物に位置づける。また、生産拡大にあたっては、国からの産地交付金を活用した多収性専用品種の導入及びほ場の団地化や利用集積の推進を図る。

#### イ 米粉用米

飼料用米とともに主食用米以外の中心作物に位置づける。また、生産拡大に

あたっては、国からの産地交付金を活用したほ場の団地化や利用集積の推進、また、コスト低減による収益性の向上を図るため、直播栽培の導入・拡大を図っていく。

#### ウ 加工用米

需要動向を見据えつつ、産地交付金を活用し、複数年契約の取組などにより実需者との結びつきを強化するとともに、ほ場の団地化や利用集積を推進し、生産の拡大を図っていく。

#### エ 備蓄米

主食用米と実質的に同等の取り組みで対応可能なことから、有効に活用していくこととする。

### (3) 大豆

ほ場の団地化及び利用集積の推進に取り組み、栽培面積の拡大を図る。

### (4) そば

ほ場の団地化及び利用集積の推進に取り組み、品質の向上を図り、地域の実需者との契約に基づき、栽培面積の拡大を図る。

### (5) 野菜

「アスパラガス」、「えだまめ」、「山菜類」、「みょうが」、「イチゴ」を振興作物として位置付け、ほ場の団地化による生産性の向上を図りながら生産を拡大する。

### (6) その他野菜

農家所得の向上を図るため、地域の実情に適した新たな野菜類の作付けを推進する。

### (7) 花き・花木

「ユリ」を振興作物として位置付け、ほ場の団地化による生産性の向上を図りながら現状の作付面積を維持する。

また、その他の花き・花木について農家所得の向上を図るため、地域の実情に適した新たな品目の作付けを推進する。

### (8) 雑穀、その他作物

農家所得の向上を図るため「アワ」、「キビ」等の雑穀について、現状の作付面

積を維持するとともに、その他の作物について地域の実情に適した新たな品目の作付けを推進する。

(9) 不作付地解消

現行の不作付地のうち 7.5ha については、平成 28 年までに、そば、大豆、山菜の作付けを拡大して解消を図る。

**3 作物ごとの作付予定面積**

作物	平成25年度の作付面積 (ha)	平成26年度の作付予定面積 (ha)	平成28年度の作付予定面積 (ha)
主食用米	918.6	911.9	893.7
加工用米	2.2	3.9	10.0
備蓄米	25.8	27.5	25.5
米粉用米	73.5	75.5	76.5
飼料用米	8.7	8.9	9.6
WCS用稲	0.0	0.0	0.0
麦	0.0	0.0	0.0
大豆	8.2	7.9	9.0
飼料作物	3.9	3.7	4.0
そば	17.2	17.3	18.0
なたね	0.0	0.1	0.0
その他地域振興作物	64.5	67.3	70.8
アスパラガス	0.9	1.0	1.5
えだまめ	4.2	4.6	5.0
山菜類	15.0	17.1	19.5
みょうが	1.8	1.9	2.0
その他野菜	32.4	32.5	32.5

	雑穀	0.5	0.5	0.5
	ユリ	2.0	2.0	2.0
	イチゴ	0.2	0.2	0.3
	その他	7.5	7.5	7.5

#### 4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 26 年度 (当年)	平成 28 年度 (目標値)
1	大豆	ほ場の団地化・利用集積への取組 (1ha 以上)	イ	実施面積	0ha	1.5ha	3.0ha
2	そば	ほ場の団地化・利用集積への取組 (1ha 以上)	イ	実施面積	0ha	3.6ha	4.0ha
3	米粉用米	直播栽培の取組	イ	実施面積	0.9ha	2.3ha	3.5ha
4	飼料用米	多収性専用品種の取組	イ	実施面積	8.7ha	8.9ha	9.5ha
5	加工用米	複数年契約 (3 年以上) の取組	ア	実施面積	0.0ha	3.0ha	4.0ha

※「分類」欄については、要綱（別紙 11）の 2(5)のア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。  
（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組

イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組

ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

## 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり